

## 最近の道内経済動向

- 道内景気は、緩やかに持ち直している。
- 先行きは持ち直し基調が続くとみられるものの、物価高の影響が広がることで持ち直しのテンポは緩やかなまま推移すると予想している。

(注) 基調判断は2023.9.25時点で入手可能な主要経済指標を参考とした(7~8月実績が中心)。

### ●個人消費は持ち直し基調にある

7月の供給側の統計(商業動態統計など)をみると、百貨店・スーパー(前年比+5.4%)やコンビニエンスストア(同+9.3%)などの販売額は増加したものの、新車販売台数(軽含む乗用車、同▲2.9%)は11ヵ月ぶりに減少した。需要側の統計をみると、家計の消費支出額(7月の家計調査を基に算定)は同+5.4%と2ヵ月連続で増加となった。総じて個人消費は物価上昇が足かせとなりつつも、持ち直し基調にある。

### ●観光は持ち直し基調にある

道内への外国人入国者数(8月)は13.5万人と、新千歳空港の国際線定期便運航の再開が本格化に向かう下、緩やかながら持ち直している。7月の来道者数(国内交通機関経由)は、129.4万人(前年比+22.7%)と2021年11月以降、前年比で増加が続いている。水準では、コロナ前(19年7月)と同程度の水準まで回復した(19年比▲0.4%)。

(注) 外国人入国者数とは、道内で入国手続きした外国人数。来道者数とは、国内路線(航空、JR、フェリー)利用による旅客数(国内客と道外で入国手続きした外国人客)を指す。

### ●住宅建築は減少傾向にある、設備投資は持ち直しの動きがみられる、公共工事は緩やかに持ち直している

新設住宅着工戸数(7月)は、前年比▲12.2%と2ヵ月ぶりの減少となった。利用関係別にみると、持家(同+0.7%)が微増の一方、貸家(同▲9.3%)、分譲住宅(同▲49.4%)ともに減少した。北海道財務局が9月13日に公表した法人企業景気予測調査(北海道)での2023年度設備投資計画(ソフトウェア投資額を含み、土地購入額を除く)は、全産業で前年比▲11.4%、製造業は同+13.9%、非製造業は同▲17.9%となった。調査対象に含まれない道外企業による投資計画を勘案すると全体では上向いているとみられる。公共工事出来高(7月)は1,477.3億円(前年比+15.7%)と7ヵ月連続で増加した。公共工事請負金額(8月)は、615.7億円(同+2.9%)と2ヵ月ぶりに増加した。

### ●生産は悪化の兆しがみられる

鉱工業生産(7月)は、前月比▲0.2%と2ヵ月ぶりの低下となった。鉄鋼(同+23.2%)などが上昇した一方、化学・石油石炭製品(同▲10.7%)などが低下した。

### ●輸出は悪化傾向にある

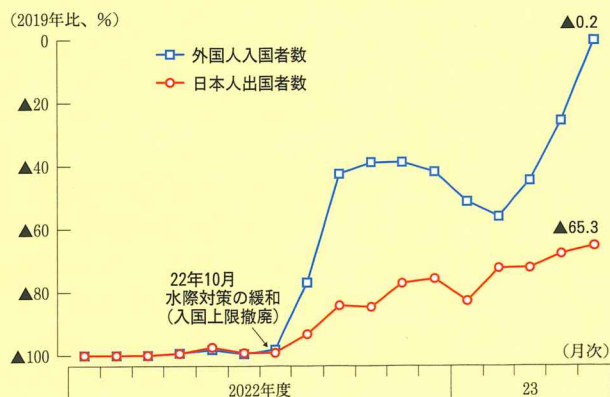
8月の通関輸出額(速報値)は、251.4億円(前年比▲48.1%)と2ヵ月連続で減少した。品目別では、「鉄鋼くず」(同3.5倍)や「自動車の部分品」(同+19.3%)が増加した一方、「魚介類・同調製品」(同▲38.7%)や「一般機械」(同▲11.9%)などが減少した。特に8月は再輸出品(同▲96.8%、同▲160.3億円)の反動減が全体を押し下げたほか、中国による日本産水産物の輸入停止措置を受け、同国向けの「魚介類及び同調製品」(同▲68.6%)などが大幅に減少した。

### ●雇用情勢は緩やかに持ち直している

7月の有効求人倍率(パート含む常用)は、1.00倍(前年差▲0.10ポイント)となった。雇用情勢は総じてみれば緩やかに持ち直している。

新千歳空港の外国人入国者数と日本人出国者数の推移

23年8月の新千歳空港の外国人入国者数は12.9万人(19年比▲0.2%)とほぼコロナ禍前の水準まで回復した一方、日本人出国者数は0.6万人(同▲65.3%)と回復が大幅に遅れている。その背景には様々な要因があると考えられるが、少なくとも、物価高騰や円安などを受けて値上がりした海外旅行に対する道民のマインド低下が原因の1つになっているとみられる。



(注) 直近23年8月のデータは速報値。  
(出所) 出入国在留管理庁「出入国管理統計」を基に道銀地域総合研究所作成